

行事報告

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—CIS 活動報告(IHI 相生事業所)

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業 国際人材育成部門
特任准教授 勝又 美穂子(常勤)

2018年8月19日~9月1日の期間で、カップリング・インターンシップ(CIS)初となる、日本国内における実施、「インバウンドカップリング・インターンシップ」を実施しました。企業実習受け入れ先はIHI相生事業所で、海外連携大学はインドネシア大学でした。4名の本学学生(工学系3名、文系1名)、4名のインドネシア大学学生(工学系2名、文系2名)が大阪で合流し、8名が合同で活動に参加しました。最初の2日間は当研究所にて事前研修を行い、日系企業理念、CSR、5S、QC活動、コミュニケーション、接合基礎などの講義が行われました。その後兵庫県相生市に移動し、5日間の行程でIHI相生事業所にて企業実習を行いました。企業より「グローバル人材育成における課題と対策」というテーマを設定頂き、学生はCISの活動中、常に同テーマを意識しつつ取り組みました。IHI相生事業所では、会社紹介、人事活動、品質管理・保証、工場見学、設計(ボイラーユニット)、溶接実習他、幅広い視点から企業活動の全体を学ばせて頂きました。また、企業の皆様とのインタビュー時間を多数設定頂き、学生から出る様々な質問に対し、時間を割いて

それぞれのご経験から生の声を聴くことが出来ました。更に、IHI相生事業所で製造されているボイラー製品が実際にどう利用されているかを見学する目的で、関西電力相生発電所を訪問する機会も頂戴しました。社会に大きなインパクトを与える製造業の活動を間近で学び、学生は終始興奮した様子でした。

最終報告会には、IHI相生事業所の村角工場長、加藤課長、熊谷課長、松浦課長代理、インドネシア大学渉外担当 Dr. Dodi 他当研究所南所長以下先生方が参加されました。

学生は2週間を通して取り組んだ「グローバル人材育成に関する課題と対策」に対する考察と提言についてチーム毎に発表しました。課題に対し、パーソナリティー、言語、技術、コミュニケーションなどの観点から分析し、学生ならではの発想で提案を行いました。

企業の皆様からは、CISの受け入れにより様々な点を改めて社内でも考察する機会となったとのお言葉を頂戴し、初のインバウンドCISでしたが、企業のご協力により充実した活動の下、成功裏に終えることができました。

